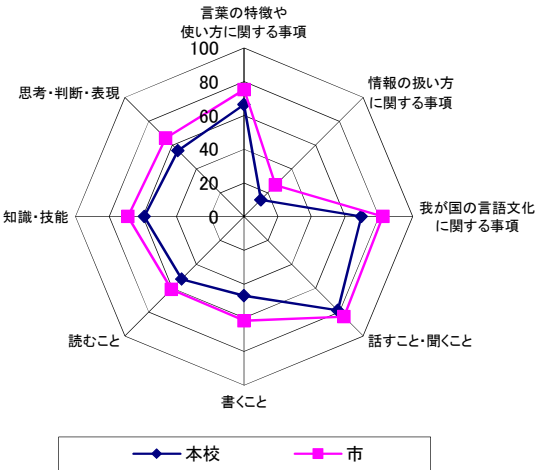


宇都宮市立五代小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.4	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	14.1	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	69.6	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	78.6	83.9	84.2
	書くこと	46.9	61.7	64.5
	読むこと	52.4	60.9	61.0
観点別	知識・技能	59.2	68.8	70.3
	思考・判断・表現	55.4	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

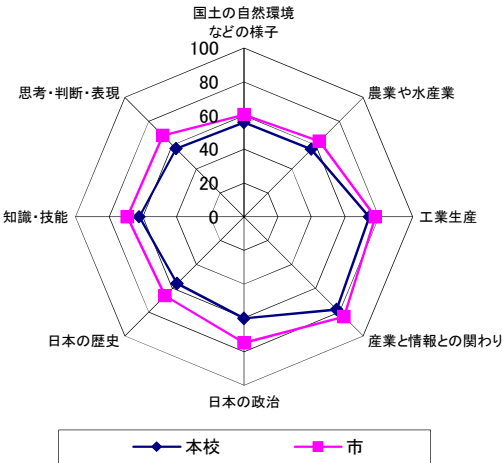
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○三字の熟語の成り立ちの問題では、市の正答率より低い、全国の正答率よりやや高い。 ○第6学年に配当されている漢字を正しく読む問題において、正答率が90ポイント以上であった。 ●第5学年に配当されている漢字を正しく書く問題において、正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・継続的に漢字の読み・書きを繰り返し定着を図る。 ・文章を書く活動において、既習の漢字を確実に使えるように細やかに指導していく。 ・時と場に応じた言葉遣いができるよう、学校生活の中で誤った使い方をしたときには、細やかに指導していく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題や、目的に応じて文章を書く問題において、正答率が低い。	・日常的に文章の中にある情報を整理したり、図表・グラフの意味を読み取って活用したりする活動を取り入れる。 ・情報の扱い方の基本的な力を身に付けさせる手立てとして、複数の情報を比較したり関連性を見付け出したりしながら目的に応じた文章を書けるよう支援していく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ●和語・漢語・外来語などの語句の由来についての問題において、正答率が低い。	・読書を推奨し、語彙を増やしていく取り組みを行うとともに、授業の中では新単元において辞書やタブレットを活用しての意味調べを行うようにする。 ・覚えた言葉を日常生活や作文などで活用する機会を設ける。 ・和語を漢語や外来語に言い換えたり、その逆の言い換えをしたりする活動を行い、語彙を増やせるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○意図に応じて質問を工夫する問題において、正答率が市や全国の正答率と同等であった。 ●話の内容を捉える問題において、正答率が低い。	・一問一答式の受け答えだけに留めず、日常的に会話がより深まるような質問をし合う活動を取り入れ会話スキルの向上を図る。 ・意見交換や討論の場において、自分と相手の意見を比較したり吟味したりする経験を積めるように指導していく。 ・立場や順序を明確にした話し合い活動を通して、話し方や聞き方等の基本的な力を身に付けられるように支援する。
書くこと	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ●全ての問題において、市の正答率より大幅に低い。	・授業のまとめや振り返りを簡潔な文章で記述する習慣を身に付けさせることで、要点を落とさずまとめる力の向上を図る。 ・自分の意見を明確に伝えるための工夫の有無が、聞き手や読み手に与える印象にどのような違いを生じさせるのかを比較させることで、表現の工夫の効果を実感できるようにする。
読むこと	平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題において、市や全国の正答率と同等であった。 ●物語の内容を描写を基に捉える問題において、正答率が低い。	・物語文の学習においては、場面ごとの内容や、登場人物の心情の変化を丁寧に読み取る活動を大切にし、叙述を正しく読み取れるように支援していく。 ・説明文の学習では、文章を読み取り要旨をまとめる活動や文章構成を考えさせる活動を多く取り入れ、内容や構成を正確に読み取る力や読解力が伸びるような取り組みを工夫していく。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	55.9	60.5	65.8
	農業や水産業	56.5	63.3	66.0
	工業生産	74.3	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	77.7	83.8	76.6
	日本の政治	60.3	74.9	74.1
	日本の歴史	56.1	66.3	68.3
観点別	知識・技能	62.1	69.3	71.4
	思考・判断・表現	57.0	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

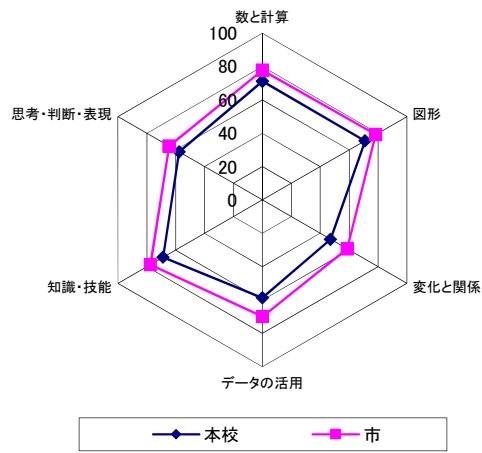
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は市の平均正答率と比べて低い。 ○季節風についての理解を基に、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題での正答率は市の平均と同程度であった。 ○公害についての問題での正答率が高い。 ●海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現する問題での正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳を活用し、地形や川、山地などの名称と位置関係に関連付けながら、知識を広げられるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。 ○米の品質を高める工夫についての理解を問う問題での正答率が比較的高い。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題について考える問題の正答率が低い。	・地図帳を活用し、都道府県の位置と主な農産物の産地を関連付けながら、知識を広げられるようにする。 ・資料を活用しながら農業や水産業の基礎・基本となる知識の定着を図る。
工業生産	平均正答率は市の平均正答率と比べて低い。 ○日本の主な輸出品・輸入品についてを問う問題での正答率が高い。 ●自動車の製造工程についてを問う問題の正答率が低い。	・なぜその工程や作業、工夫などが必要になるのか考える活動を多く設定していく。 ・複数の資料を比較し、内容を読み取る活動を多く設定していく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題での正答率が高い。 ●産業における情報活用の現状について考える問題での正答率が低い。	・資料を活用しながらメディアや情報、自然や環境などの基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・児童にとって身近な資料を使用し、生活の中の情報について、関心をもって追究したり考えたりすることができるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。 ○平和主義の基本的な考え方について理解する問題の正答率は比較的高い。 ●日本国憲法についての理解を問う問題での正答率が低い。	・資料を活用しながら日本国憲法の基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・日本国憲法の学習の際、資料を活用しながらしっかりと捉えられるよう指導していく。 ・図を用いて相互の関連性を考えながら、仕組みについて考える活動を多く設定していく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。 ○大和朝廷による統一についてを問う問題の正答率が比較的高い。 ●鎌倉時代や室町時代の文化について問う問題での正答率が低い。 ●元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断する問題の正答率が低い。	・歴史的な事象のつながりや、歴史上の人物の業績などを表や図を用いて整理してまとめ、基礎・基本となる知識の定着を図る。 ・資料から読み取ったことや自分の考えをまとめ表現する時間を設定し、思考力、判断力、表現力の向上を図る。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.1	77.7	78.6
	図形	71.0	78.4	74.4
	変化と関係	47.1	58.7	53.0
	データの活用	58.7	69.9	57.2
観点別	知識・技能	68.8	77.5	74.0
	思考・判断・表現	57.6	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

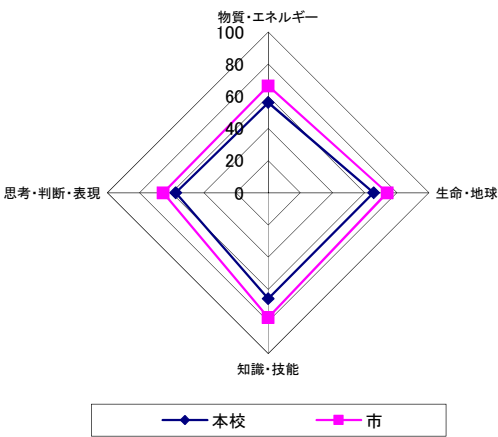
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○分数のかけ算・わり算の問題は市の平均正答率と同程度である。 ●小数の割り算、異分母分数の減法の計算では、市の平均正答率を10ポイント以上下回り課題が見られる。	・「小数や分数の計算」に関しては、授業や朝の学習の時間にドリルやタブレットなどを活用し、繰り返し練習させることで定着を図る。 ・技能に個人差が見られるため、習熟度別学習や個別指導の機会を設け、個に応じた指導の充実を図る。
図形	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○点対称な図形において、対称の中心を選択する問題では市の平均正答率を上回っている。 ●底面積と高さから角柱の体積を求める問題、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題、三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を選ぶ問題では、市の平均正答率を10ポイント以上下回り課題が見られる。	・「図形の基礎問題」に関しては、図形の面積や体積の求め方を繰り返し復習し、基礎事項の定着を図る。 ・基礎事項の知識を組み合わせるような問題に関しては、習熟度別学習で応用問題をとり上げるなど、児童の理解度に応じた学習形態を工夫する。 ・立体図形の展開図を組み立てるような問題には、実際に組み立てる活動やタブレットの活用などを積極的に取り入れ、図形構成の理解の定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○円グラフから割合を読み取る問題では、市の平均正答率を下回ったものの、平均正答率が80%を上回っている。 ●単位量あたりの大きさ・速さの問題では、市の平均正答率を10ポイント以上下回っている。特に分速を秒速や時速に直す問題では、平均正答率が40%を下回り、市の平均正答率を15ポイント以上下回り課題が見られる。	・「単位量あたりの大きさ」や「速さ」の問題に関しては、「基準量 比較量 割合」の関係を明確にさせたり、数直線などの図を用いて求める数量を視覚的にとらえられるような工夫をしながら、見通しをもって問題に取り組む力の定着を図る。 ・「速さ」に限らず単位の変換については苦手意識が強いので、一覧表を作り繰り返し確認するなどの活動を通して理解の定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均正答率より低い。 ○データから度数分布表を完成させる問題では、市の平均正答率と同程度である。 ●平均から全体の量を推測する問題、ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題、ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題では、市の平均正答率を10ポイント以上下回り課題が見られる。	・ドットプロットやヒストグラムなどの「資料を読み取る」問題に関しては、それぞれの資料の特長や使われる場面などを理解したうえで練習問題に取り組むような学習活動を展開する。 ・自分の考え方を「説明する」問題に関しては、答えに至るまでの考え方を記録に残すことを重視し、日常のノート指導を強化するなど他教科との関連も図りながら粘り強く指導していく。

宇都宮市立五代小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.1	66.5	66.3
	生命・地球	65.6	74.0	72.6
観点別	知識・技能	65.9	77.6	78.2
	思考・判断・表現	57.5	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。 ○電気のはたらきの分野で、電磁石の極の性質に関する実験問題では、全国の平均よりやや高い。 ○水溶液の性質の分野で、未知の水溶液を調べる方法を考える問題では、市や全国の平均よりやや高い。 ●電気のはたらきの分野で、コイルの名前を書く問題では、正答率が市より20ポイント以上低い。 ●ものの溶け方の分野で、実験方法を選択する問題や水に溶かした質量を求める問題の正答率が市より大幅に低い。	・授業の中で、予想・実験・結果の考察の時間を十分に取り、見通しをもって活動する中で、科学的な見方や考え方を深められるように支援していく。 ・予想と大きく違う結果になったものについては、まとめや振り返りをしっかりと行い、知識の定着を図る。 ・実験を行う際は、使用の目的や器具の操作方法を丁寧に示していく。また、すべての児童が実際に操作を行えるよう配慮する。
生命・地球	平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。 ○植物のつくりとはたらきの分野で、茎の水の通り道を選択する問題では、全国の平均よりやや高い。 ○天気の変化の分野で、台風とダムに関連について考える問題では、全国の平均よりやや高い。 ●動物のつくりとはたらきの分野で、だ液と消化に関連する問題では、正答率がとても低い。 ●月と太陽の分野で、月の形から太陽がある方位と時刻を考える問題の正答率が市より15ポイント以上低い。	・学習した当時は理解していても、時間が経ち忘れてしまい易い所もある。生活に関連付けて理解させたり、既習内容をノートやレポートでまとめたりするなどの方策により、しっかりと知識の定着を図っていく。 ・模型や動画の視聴など、視覚的に捉えられるような指導の工夫により、理解を深められるようにする。

宇都宮市立五代小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組む、課題を解決できる手立ての工夫	・宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を的確に見取り、適切に指導・支援する。 ・自己の学習活動を振り返り、次につながる主体的な学びの実現を図る。	・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。
・粘り強く自力解決に取り組む、より良く解決できる手立ての工夫	・授業の中で働かせたい見方・考え方をしっかりと確認しておき、思考の過程や根拠を表現させるための手立てを工夫する。 ・児童が興味をもち進んで学習できるような学習方法を取り入れ、学びを深められるようにする。	・「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」に肯定的に回答した児童の割合は89%だが、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」に肯定的に回答した児童の割合は76.8%程度である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

次年度は、文章の内容や意味を理解するために必要な読解力を高める取り組みに力を入れていく。国語の学習において、文脈から意味を推測したり、語彙力を増やしたりすることで、文章を読む際の基礎となる力の習得を目指す。また、「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」の肯定的回答は68%程度と、市の肯定的割合よりも低いことから、自分の考えを明確に文章にする活動を意図的に設け積み重ねていく必要がある。基本的な学習態度・学習技能の習得を基に、一人一人に応じたきめ細やかな指導を展開し、基礎基本の確実な定着を図る。（少人数指導、かがやきルームの活用、朝の学習の効果的な運用）